



あっさり黙示録

# 14 「イスラエル史上最悪の施設となる第三神殿」

黙示録 11 章

東住吉キリスト集会 高原 剛一郎 氏



お元気ですか。高原剛一郎です。今日はあっさり黙示録シリーズの第 14 回、黙示録 11 章をご一緒に見たいと考えています。

黙示録のストーリーは、3 つの 7 つのもので展開して行くんですね。  
最初に 7 つの封印が次々開封され、7 番目の封印が開封されると 7 つのラッパが出て来ます。  
それが次々吹き鳴らされ、7 番目のラッパが吹き鳴らされると 7 つの鉢が出て来ます。  
7 番目の鉢が注ぎ込まれるとキリストの地上再臨が起こります。  
こうして 7 年間の艱難時代が終了。この後メシア的王国（千年王国）が到来します。

今 封印→ラッパ→鉢で進んでいるのですが、途中 4 回の挿入箇所があるんです。  
これから登場する人物や出来事を予備知識として前もって説明したり、これから展開する時代背景の解説をするために、説明箇所が 4 回差し込まれているんですね。既に 1 回ありました。7 章です。

今日見る 11 章 1 節 - 13 節は 2 回目の挿入です。ここには 3 つの出来事が解説されていますが、今日はその 1 つ目を見ます。それは艱難時代の間、ちょうど 3 年半の時に、エルサレム神殿で起こる異変についての解説です。

**黙示録 11 章 1 節 それから、杖のような測り竿が私に与えられて、こう告げられた。**

測り竿はギリシア語でカラモス/葦（あし）。川べりに棒のように成長する植物です。  
中東世界ではカラモス（葦）、まっすぐな棒のような物が、寸法を測る基準として物差し代わりに用いられました。必要な長さに足りているかどうかを測るための基準、合格か不合格かを判定する基準が測り竿。その測り竿で測るものと、測ってはならないものが 11 章に出て来ます。

**1) 測るもの**

**1 「立って、神の神殿と祭壇と、そこで礼拝している人々を測りなさい。」**

神の神殿はエルサレム神殿。しかし、ヨハネが黙示録を書いているのは 96 年頃と言われているので、既にエルサレムに神殿はありません。70 年にローマとの戦争でエルサレム神殿は炎上しました。神殿が炎上しただけではなく、エルサレムの町全体が瓦礫になってるんです。  
ですから、ヨハネが黙示録を書いている時点で、神殿は世界中のどこにもありませんでした。

ここで彼が見せられている幻の神殿は、艱難時代に建っている神殿です。  
聖書預言によると、艱難時代にイスラエルはもう一度神殿を再建します。エルサレムに。  
その神殿は悪用されます。悪い神殿。これが第三神殿です。この神殿について語っているんですね。

**立って、神の神殿と祭壇と、そこで礼拝している人々を測りなさい。**

神殿はギリシア語でナオン。直訳は聖所。聖所とは神殿の中核施設です。



これはエルサレム第一神殿の想像図です。  
右の方に牛の姿をした像があって、その背中に大きな鉢の  
ような物が乗ってますね。これは洗盤。  
祭司たちが手足を清める水が入っています。

左側で煙が立ち上っていますね。これが祭壇。  
祭壇はいけにえを焼く所です。祭壇には、一般のユダヤ人男  
性がいけにえを携えて近づくことができます。

聖所（ナオン）は階段を上った赤い幕の中です。そこに入ることができるのは祭司だけ。  
祭司とは、ユダヤ人の中の神主階級とでも考えたらいいと思います。

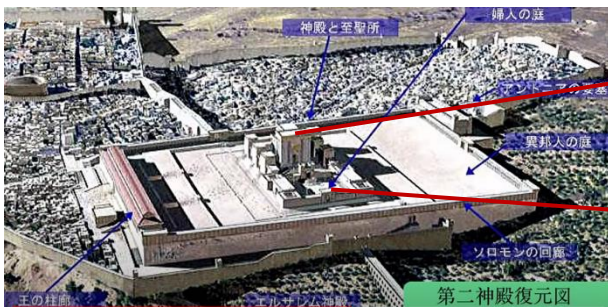
聖所に入れるのは、ユダヤ人男性の祭司階級だけ。  
祭壇に近づけるのは、いけにえを携えた一般のユダヤ人男性だけ。

神の神殿と祭壇と、そこで礼拝している人々（全員ユダヤ人）を測りなさい。  
測りなさい。これは先ほど言ったように、合格・不合格の判定基準に当てはめて取り締まりなさい、  
という意味です。測りなさいというよりも吟味しなさい。  
というよりも調査しなさい。取り調べなさい。合格か不合格かを調べなさい。  
調べた結果、中間時点で礼拝しているユダヤ人たちは全員、神の目に不合格になるんです。  
なぜ不合格なのかは後で言います。

## 2) 測ってはならないもの

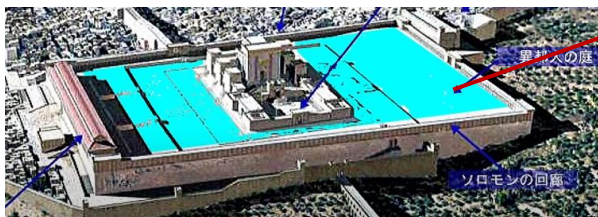
2 神殿の外の庭はそのままにしておきなさい。それを測ってはいけません。

それは異邦人に与えられているからだ。彼らは聖なる都を四十二か月の間、踏みにじることになる。



これはエルサレム第二神殿の復元図です。  
神殿と至聖所があって、その前が聖所。  
神主階級だけが入れるところです。

その手前に婦人の庭。



建物周辺に広い異邦人の庭。  
ユダヤ人でなくても立ち入ることができた広場のよ  
うな場所で、ここが神殿の外の庭です。  
神殿の外の庭は異邦人に委ねられている。  
それを測ってはいけません。

彼ら（異邦人たち）は聖なる都を四十二か月の間踏みにじる。だから吟味してはならない。  
取り調べる必要もない。つまり、神によって拒絶されているのです。  
この中間地点において、エルサレムは神から拒絶された町になっているんですね。

42 か月間、エルサレムはイスラエルの首都であるはずなのに、異邦人によって蹂躪されることになるから。

42 か月は艱難時代後半の3年半のことですが、ここだけでは分かりにくいので、旧約聖書のダニエル書を引用します。9章27節。

**彼は一週の間、多くの者と堅い契約を結び、半週の間、いけにえとささげ物をやめさせる。  
忌まわしいものの翼の上に、荒らす者が現れる。  
そしてついには、定められた破滅が、荒らす者の上に降りかかる。**

今から2600-2700年前に書かれたダニエル書、この27節を細かく見て行きましょう。

彼は反キリスト。一週の間は7年間。7はヘブライ語でシャブアー。

多くの者は世界中の人々ではなく、イスラエルの大多数の者たち。この箇所だけでは分かりにくいですが、前後の文脈を見るとそう書いてあります。

堅い契約とは、7年間の有効期限を持つ安全保障条約。

反キリストは、イスラエルの大多数が賛成する7年間の有効期限の安全保障条約を結ぶ。

それは非常に誠意のあるしっかりした立派なものだと皆思っていました。

ところが、半週の間、いけにえとささげ物をやめさせる。

いけにえとささげ物を献げるのは、通常のユダヤ教の礼拝形式です。それをやめさせるというのは、ユダヤ教の礼拝をやめさせて別の礼拝形式を導入するということ。いったい何が起こるのでしょう。

忌まわしいものの翼の上に、荒らす者が現れる。

旧約聖書で忌まわしいものは、例外なく偶像のことです。反キリストの形の偶像がエルサレム神殿の至聖所に設置される。設置されるその時に、荒らす者（反キリスト）が現れる。

反キリストは自ら、エルサレム神殿の一番奥の至聖所に土足でズカズカ入り込み、自分の形の偶像を設置するんですね。それが後半3年半（42 か月）続く。

しかしついには、定められた破滅が、荒らす者（反キリスト）の上に降りかかる。

誰によってでしょうか。地上再臨のキリストによってです。

黙示録11章1-2節とダニエル書9章27節は、同じ事件について語っているんですね。

黙示録11:2 彼らは聖なる都を四十二か月の間、踏みにじることになる。

これがダニエル書9:27で、（荒らす者が）半週の間、いけにえとささげ物をやめさせる、という表現になっているのです。

艱難時代中間期以降は、特にユダヤ民族にとって塗炭の苦しみ・七転八倒の苦しみの時代が始まるんだ、ということを11章で語っているんですね。

今回は、艱難時代中間期に起こる2番目の出来事について解説したいと思いますので、またご覧ください。よろしければチャンネル登録もお願いします。ではまたお目にかかりましょう。さよなら！

☆使用した聖書は「聖書 新改訳2017」です。